

### 子どもの権利PRロゴマークの決定

子どもの権利や子どもの権利条例について、多くの市民の皆さまに知ってもらい、関心を持ってもらいたいと考え、ロゴマークを作成しました。



ロゴマークの作成に当たっては、平成23年度の子ども議員が集まり考えたキャッチフレーズを基にイラストの候補をつくり、市内の児童会館、円山動物園や中央図書館などの施設で人気投票を行い、合計3,597名の子どもによる投票の結果、このマークが選ばれました。

ロゴマークにあるキャッチフレーズ「夢をさかせる」は、条例にある「夢に向かってチャレンジし、失敗しても新たにチャレンジすること」という子どもの権利を大切にしていこうという意味とあわせて、子どもの可能性を広げていこうといった意味が込められています。

四つ葉のクローバーは、一般的に「幸せ」や「幸福」を表すものとして描かれることが多く、子どもの権利条例を制定し、すべての子どもが幸せにすごすことができるまちをつかっていこうという札幌市の姿勢を示すと同時に、条例で定める4つの子どもの権利（「安心して生きる権利」「自分らしく生きる権利」「豊かに育つ権利」「参加する権利」）を表現しています。

また、これを囲むように人と人（親子、兄弟、友人）とが寄り添うようすを描いています。ロゴマークの2人のように笑顔が輝き、すべての子どもが幸せにすごせるまちとなるよう、これからも取組を進めていきます。

## 札幌市からの お知らせ

札幌市では、子どもの権利について、実例をまじえて職員が地域に出向いて説明する出前講座を行っています。

- ・10人くらいのグループ ・市内に会場の確保をお願いします。
- ・1か月くらい前にご連絡ください。

お申込みは下記の、子どもの権利推進課へ

## 子どもイベント情報

### ◎札幌市青少年育成大会

日時：11月10日（土）13:30～15:30  
場所：かでの2・7（中央区北2条西7丁目）  
お問い合わせ：子どもの権利推進課 ☎211-2942  
さまざまな分野で活躍する青少年等の表彰のほか、青少年の健全育成に関する講演会を行います。

### ◎子どもの虐待防止推進 全国フォーラムinほっかいどう

日時：11月24日（土）10:00～16:00  
場所：札幌コンベンションセンター（白石区東札幌6条1丁目）  
お問い合わせ：児童福祉総合センター ☎622-8620  
児童虐待問題についての理解をより一層深め、主体的に関わりをもっといただけるよう意識啓発を図るため、有識者による講演会やシンポジウムを行います。なお、参加には事前申込が必要です。

### ◎子どもの権利の日

日時：11月17日（土）10:00～16:30  
場所：札幌エルプラザ（北区北8条西3丁目）  
お問い合わせ：子どもの権利推進課 ☎211-2942  
子どもの権利についての啓発作品授賞式や、小学5年生から高校3年生を対象として、「将来の夢」や「さっぽろの未来」をテーマにした話し合いを行います。

### ◎2012 さっぽろ子育て支援推進のつどい

日時：11月21日（水）12:00～16:00  
場所：かでの2・7（中央区北2条西7丁目）  
お問い合わせ：子育て支援総合センター ☎208-7961  
「さっぽろ子育て支援推進のつどい」は、札幌市の子育て支援ネットワークを強化し、子育て支援の環境づくりを推進することを目的に毎年開催しています。  
今年は、子育てサロン等のネットワークを通じ、次の世代に育む心を伝える「次世代育成支援」をテーマに参加者の皆さまとともに、地域の力を活かし支え合う社会づくりについて考えます。

子どもがきらりと輝くまちに

# 子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第7号  
平成24年10月発行

## 自然とふれ合う！「魚組&ヤンマ団」

豊平区にある西岡公園で活動する「にしおか魚組」と「西岡ヤンマ団」の取組を紹介します。

にしおか魚組は、西岡公園内の池や川の生き物を調査する子どもたちの活動です。活動を通して、子どもたちが水辺の生き物に親しみ環境への理解を深めること、調査を通し未来に役立つデータを残すこと、そして、公園の自然の豊かさや大切さをたくさんの人に伝えることを目的に、平成21年度から行われています。

4年目を迎える今年は、近隣の小学校を中心に11名が調査員として参加しています。4月14日（土）は、今年度最初の活動でオリエンテーションが行われました。今回初めて参加する子どもたちに、調査のためのグッズ（網、水槽、帽子、野帳等）が配られた後、継続して参加している先輩調査員が昨年度の活動内容などについて説明しました。写真を交え、生き生きとした説明で新入会員の期待が高まったところで、早速採取調査に出発です。

今回の調査地点は、小川が池に流れ込む湿地帯です。水温や川底の様子など環境を調べて野帳に記録したら、いよいよ採取に挑戦です。水の流れと反対方向に網を置いて、手前の川底を足でバタバタ踏みつけ、枯草などが網の中に流れ込んできたら、網を地面に広げます。何かないか目を凝らして見つめていると…「あ！いた！」。網のなかで微かに動く小さな魚やエビなどの姿に、みんな目を輝かせていました。

調査の後は、魚や釣りを題材にした作



品を手掛ける漫画家かじさやかさんによる水生生物のスケッチ講座が行われました。魚やエビ、カエルの体の特徴から、バランスよく絵を描くにはどうしたらよいか教えてもらおうと、実際にスケッチに挑戦です。真剣な目つきで魚を見つめながら、慎重にデッサンを進めていき、最後に色を塗って完成。今回、初めて参加した子どもも、かじさんからいねいに教えてもらったおかげで、満足のいく仕上がりになりました。

活動の後、子どもたちは「色々な生き物を見つけられて楽しかった」「絵が上手にできて良かった」と感想を話してくれました。

今後、10月まで公園内のさまざまな地点で採取調査を行いながら、それぞれ「魚の住む環境」「外来種」など研究テーマを決定します。その後、調査結果に基づき、研究成果をまとめ、活動報告会を行うことになっています。

西岡ヤンマ団は、同じく西岡公園でトンボを調査する子どもたちの活動です。今年、5月19日（土）の入団式から来年2月の活動報告会・報告会まで概ね月1回、北海道トンボ研究会の平塚先生や刀禰（とね）さん、公園のスタッフの指導のもと、小学2年生を中心に6年生まで14名の団員が活動します。スタッフには、ヤンマ団を卒業した中学生もいて、団員の面倒を見ます。

活動内容は、10月までは、トンボの調査（採集）と標本づくりで11月から2月までは、結果のまとめと報告会などの準備です。

取材した7月14日（土）は、あいにくの曇り空でしたが、14名の団員と5名の保護者が参加し、スタッフとともに活動しました。

午前中は、トンボを探しますが、天候のせいなかなか見つかりませんでした。それでも、終わってみると団員たちはニホンカワトンボやモイワサナエなどを採集していました。途中、ヤマグワの実を採って食べたり、巣から落ちた鳥のヒナを見ついたり、団員たちは元気に活動していました。

午後の標本づくりでは、低学年の団員は、細かい作業に時間がかかってしまいました。そうすると高学年の団員は自分の作業を早々に終わらせ、手伝い、たくさんいた乾燥したトンボたちは、時間内に全て収まりました。

団員たちからは、「トンボをとるのは、水の中に入ったりして大変だけど大好き。」という声が聞けました。この日は天候が悪く、思ったようにトンボを採集できなかったようですが、団員たちも保護者もスタッフもみんな楽しそうに活動していました。トンボの進化を研究している刀禰さんは、「ヤンマ団は、子どもに話をし、一緒に活動できる貴重な機会です。」と話していました。

来年2月から3月には、円山動物園で2つの団体の合同による活動報告展を予定しています。



★主催★  
財団法人札幌市公園緑化協会  
西岡公園（TEL：582-0050）

発行

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課  
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階  
電話 011-211-2942 ファックス 011-211-2943  
ホームページ「子どもの権利のページ」<http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>  
Eメール [kodomo.kenri@city.sapporo.jp](mailto:kodomo.kenri@city.sapporo.jp)

子どもの最善の利益を実現するための  
権利条例があるまち さっぽろ



子どもの気持ちに寄り添う  
～ピア・サポートの取組～

「たまりんぱ」で待っています!

私は現在大学4年次ですが、1年次よりピア・サポートサークル活動を行ってきました。

ピア・サポート活動とは同じ年代の人が、困ったときや悩んだ時、相談にのり、解決のお手伝いをする事です。活動の多くは中学校や高校に出向いて、喫煙や飲酒、性に関する事など主に健康について児童・生徒と一緒に学び考えるというものでした。最初は年齢が近い私達でも話すのが恥ずかしく、上手く話せないこともありましたが簡単なゲームや私達の手作りの紙芝居などを見てもらうとすぐ打ち解けることができ、短時間で何でも話してくれるようになりました。このような活動を通し、豊かな感性や行動力など子ども達の持っている素晴らしい力を発見することができ、また小さな悩みや疑問を沢山抱えていることも分かりました。同時に私たち自身も子ども達から沢山学ぶことができました。

学校での限られた時間だけではなく、若者同士話したい時に話すことができ、疑問や悩みをいつでも聞くことができる場があるといいなという思いを強くしていましたところ、昨年札幌市男女共同参画センター企画の「たまりんぱ」での活動のお話をいただきました。

「たまりんぱ」は、性別にとらわれず一人ひとりが尊重される経験をとおして、中高生に男女共同参画

の理解を深めてもらうことが主な目的で、活動は現在毎週1回集まって大学生のピア・サポーターと自由に語り合う時間と、月1回テーマを持って学びあう時間を持っています。

今日学校であったこと、友達との悩み、自分の体や心についての疑問、恋愛の悩みなど何でも話しに来てくださると嬉しいです。悩みなど無く話を聞きに来てくださるだけでもいいです。私たちは少し先を行く先輩として一緒に学び支えることができたらと思い、毎週楽しみにしているところです。ピア・サポート活動に興味関心のある方も歓迎します。

若者同士支えあう活動の輪が「たまりんぱ」から広がっていくといいなと活動を通して日々思っています。

北翔大学 根立 美奈子さん

同大学の中出佳操教授が主催していたピアサポートサークルに所属。現在、人間福祉学部福祉心理学科4年次に在学。1年次にピア・サポーター、ピア・カウンセラーの資格を修得し、児童・生徒や学生に教育活動や相談活動を行ってきました。4月からは「たまりんぱ」でボランティア活動をさせていただいています。子どもが大好きです。



札幌市内にあるすべての児童会館・ミニ児童会館では、子ども運営委員会を設置し、子どもたち自身が、会館利用に当たってのルールづくりや行事の企画などに取り組んでいます。  
今回は、美園児童会館(豊平区)の子ども運営委員会「かいりんず」の活動をレポートします。

美園児童会館子ども運営委員会「かいりんず」は、小学2～4年生12名で構成され、地域のお祭りや会館でのルールづくりなどに取り組んでいます。

今年は、7月29日(日)に開催された「みそのこども夏祭り」に缶積みゲームや魚釣りゲームなど、事前に話し合いで決めたコーナーを出店しました。当日何度もゲームに挑戦する子どももいて、「作業は大変だったけど、楽しかった。」と話してくれました。

取材した8月21日(火)は、今後、会館を利用する他の子どもたちも含めて設置を予定している会館内の係について、どんな係があったらよいか話し合われ、部屋の整理整頓を行う「整理係」や行事などをお知らせするポスターや壁新聞をつくる「新聞係」といった意見が出ていました。

また、9月4日(火)は、敬老の日の役割分担について話し合いを行い、司会や受付など、当日の練習を行いました。

「かいりんず」を担当している美園児童会館の佐藤指導員は、「行事やイベントでの活動も大事だが、今年はふだんの活動に力を入れている。「かいりんず」のメンバーが、日常生活のリーダーになり、他の子どものお手本になってもらいたい。」と話してくれました。



「かいりんず」の名称にある「かいりん」は、子どもたちの好きな「かいじゅう」と豊平区の特産品である「りんご」を合わせたキャラクターとして、以前の子ども運営委員会のメンバーが話し合いで決めたものです。「かいりんず」のメンバーは、今日も「かいりん」に負けないうる元気に活動しています。



札幌市の子ども参加  
子どもまちセン一日所長体験  
～まちの魅力を再発見!～

小学5・6年生の子どもが、まちづくりセンター(通称「まちセン」)所長の仕事を体験し、地域の活動を知る取組が行われました。

この「子どもまちセン一日所長体験」は、地域のまちづくりの拠点であるまちづくりセンター所長の仕事を小学生が体験するイベントです。小学5・6年生が、



将来のまちづくりの担い手として地域の活動を知り、参加するきっかけとなるよう札幌市市民まちづくり局が昨年度より実施し、今年で2回目となります。開催日の8月9日(木)は、市内5つのまちセン(桑園、南平岸、石山、藻岩下、手稲)で15名の子どもが一日所長の任命を受けました。

このうちの1つ藻岩下まちづくりセンターでは、松本所長と藻岩下地区連合会の阿部会長から地域の特色や日常業務の説明を受けた後、北海道電力藻岩発電所を訪問し、電気のでられる仕組みや節電の具体的な方法について取材しました。このほか、阿部会長から児童の見守り活動や市内で最初に設置された流

雪溝について説明を受けました。

午後は5か所の子ども所長が市役所に集まり、取材した内容をまとめ、ipadを駆使した映画さながらの映像や体験活動の感想を市長に報告しました。市長からは、「今回をきっかけに、自分たちのまちのことに知り、愛着を感じてほしい。」と子どもたちへメッセージが送られました。

参加した小学校5年生の寺本さんは、「ふだん住んでいるまちなのに、知らないことがたくさんあった。自分たちができることもあるので、地域の活動にどんどん参加していきたい。」と話してくれました。

